資料

『旧本庁舎解体工事における改善報告書』について　（施工業者報告の概要）

◎最大要因：「JV」と「現場 JV 職員」、「現場 JV 職員」と「協力会社」　それぞれにおいて不適正な事案を発生させないためのガバナンス（情報共有、リスク管理）が機能してなかった。

(凡例)JV：大日本土木及び市川工務店、現場 JV 職員：現場で施工管理する JV 職員、協力会社：下請け業者、店社職員：JV 本店等の技術職員

1　事故原因検証及び事故再発防止チームによる検証と検討

■**JV の両社長**を**本部長**とした**「検証・再発防止チーム」**を組織し、検証、検討

■内部的な要因の検証・・・**JV 両社各顧問（警察 OB）**が担当、調査を実施

■第三者による確認　　・解体工法・・・「公益社団法人全国解体工事業団体連合会　副会長木村氏」

　　・報告書全般・・・「労働安全コンサルタント　杉本氏」

2　事案概要

（1）　解体作業員による**産業廃棄物不法投棄**（R4 年 10 月 28 日）・・・現場内に集積した産業廃棄物（内装材）を堤防道路に不法投棄→逮捕

（2）**作業中の火災**（R4 年 11 月 17 日）・・・屋上塔屋 3F 部分の解体中に溶断火花が防音材に引火→火災発生

（3）躯体解体中の**外壁の倒壊**（R5 年 3 月 6 日午後 3 時 40 分頃）・・・下記の通り

■当初作業計画【ブロック毎 1 台重機で解体】

（施工手順の検討、承認を行う施工検討会で承認）

①R~7F の手前の梁と床スラブ 3 層部を撤去（重機から反対側の解体部分の直視のため）反対側の大梁残存

②南北それぞれに足場作業員を配置（1 フロア毎に足場固定解除）

③外壁を 1 フロアずつ内側へ倒す（3 層倒れ防止）

■当初計画を以下の理由から変更

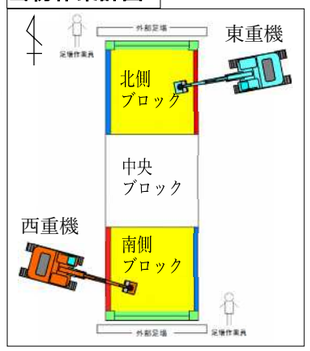
足場作業員の不足から、南北同時に足場解体撤去作業にかかれない。

【懸念事項】・重機の余分な待ち時間が生じ、予定作業量まで至らない。

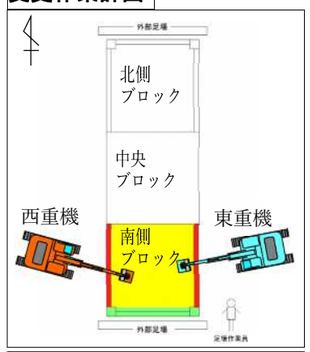
　　・不要な人件費の発生。

→ 対角重機の配置ではなく、対面重機の配置での解体に変更

当初作業計画



変更作業計画



【凡例】　撤去する梁
　　撤去する床スラブ
　　撤去しない梁
　　撤去する壁

■ 変更後の当日の作業状況

【北側躯体解体】

①東西の両重機が各重機手前の R~7F の梁を切断

②足場作業員を北側に配置（1 フロア毎に足場固定解除）

③1 フロア毎に外壁を内側に倒す

【南側躯体解体】

①　東西の両重機が南側へ移動

②　東西の両重機が各重機手前の R~7F の梁を切断

→ 南側外壁（6～8F）3 層が足場とともに内側に倒壊

■発生原因

【原因 1】　作業手順の変更について、施工検討会＊の承認得ることなく、現場 JV 職員が了承した。

＊施工検討会：主要作業前に実施する作業検討会議（店社職員、現場 JV 職員、協力会社による）

【原因 2】　「現場 JV 職員」と「協力会社」が施工手順を明確にしないまま作業を開始した。

【原因 3】　「現場 JV 職員」と「協力会社」で、実施する手順の確認がされていなかった。

⇒「現場 JV 職員」と「協力会社」に認識のズレ（現場 JV 職員：両側の 3 層梁切断×、協力会社：両側の 3 層梁切断○）があり、それが生じない取り組みが十分でなかった。

3　再発防止対策について

■施工手順の明確化

・**手順変更**が必要な場合は、**作業中断**し**施工検討会に諮り最終承認**を得る。

・実施工に合致したステップ毎の**作業手順書**を**現場 JV 職員**と**店社職員で確認**する。

・外壁倒しは**1 フロアごとを遵守＝梁の撤去は当該階のみ＝下階の大梁は残存**し進める。

・壁の転倒防止対策＝内側には補助ワイヤー、外庇にはサポートを設置する。

・**作業手順書**は**チェックリスト**により**1 ステップごとの施工手順**を**現場 JV 職員の安全管理者がチェック**。

・上記チェックは、現場 JV 職員の安全管理者が作業箇所と**現場事務所常設のモニターで監視**する。

■施工管理体制の見直し（下記 5．再発防止対策参照（3 件の連続発生事案を受けて））

・現場作業所長の交代、現場 JV 職員の増員（4 名）等

4　3 件の連続発生事案を受けた検証（事案発生要因の検証）

■JV 両社の社内体質の検証（社内アンケート結果等）

・現場 JV 職員から JV 両社に**相談しづらい雰囲気**がある。

・JV 両社の**フォローに満足していなく**、現場 JV 職員から JV 両社に未報告となるケースもある。

・JV 両社の内部においても、**情報共有に問題**がある。

■内部的要因の検証

・JV 両社及び協力会社間でトラブルや不満など問題点は確認できなかった。

（協力会社 80 社＋当日作業員等 36 名にヒアリング）

■外部的要因

・JV 両社の各現場においてヒアリングを行ったが、外部的なトラブルや問題は確認できなかった。

■検証を受けた対応

内部、外部的要因において、問題等は**確認できなかったものの両要因の存在は否定できない**ため、以下の対応を実施。

①　広く意見や要望を聞くため、匿名受付も可能な**「お問い合わせ」通報制度（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）を活用**。

②　現場および JV 両社の会社内に「意見箱」の設置。

③　現場における上記制度の**周知、啓発**。（現場および JV 両社の会社内にポスターを掲示、朝礼などで説明）

④　現場において、**現場 JV 職員から協力会社の作業員への積極的な日常の声掛け**の実施。

⑤　JV 両社における**内部通報制度**の活用。

5　再発防止対策（3 件の連続発生事案を受けて）

JV 両社として最後まで責任を持ってやりきる体制づくり

（1）現場管理体制の強化・・・現場作業所長を交代の上、**現場内の統制**を図る。

現場 JV 職員を**4 名増員**（常駐）+**補助スタッフ 5 名**（非常駐）**配置。**

（2）作業手順変更プロセスの明確化・・・変更が生じる際は工事を一時中断、施工検討会に諮る。

（3）施工手順の確認と監視・・・作業直近だけでなく、4 方向からのカメラによる常時作業の確認。

（4）店社職員によるサポート・・・施工検討会の実施の徹底、協力会社の作業員の確保など。

（5）現場内の職場環境の改善・・・問い合わせ、通報、意見箱の意見を吸い上げ、なんでも相談できる職場環境への改善。

6　今後の工程について　　＊安全かつ確実な作業とする為、2ケ月間の延長（10/末→12/末）を希望

◎　工事再開及び、工期延長について

○原因究明、改善、今後の安全対策が確認できたことから、工事を 5/8 から再開するもの。

また、完成工期を 10/31 から 12/28 に変更する。

・学識経験者からの助言：　解体手順の確実な履行、店社パトロールでの確認、協力会社の作業員への声掛け、近隣配慮などに関する助言

⇒　それらを JV に指示。

学識経験者（2 名）
・専門：土木系コンクリート構造
・専門：建築構造